

[開園時間]

期 間	無料区域	有料区域
4月～6月、10月～11月	8:00～19:30	8:30～19:00
7月～9月	8:00～20:30	8:30～20:00
12月～3月	8:00～18:30	8:30～18:00

[休館日]

7月の第一水曜日とその翌日

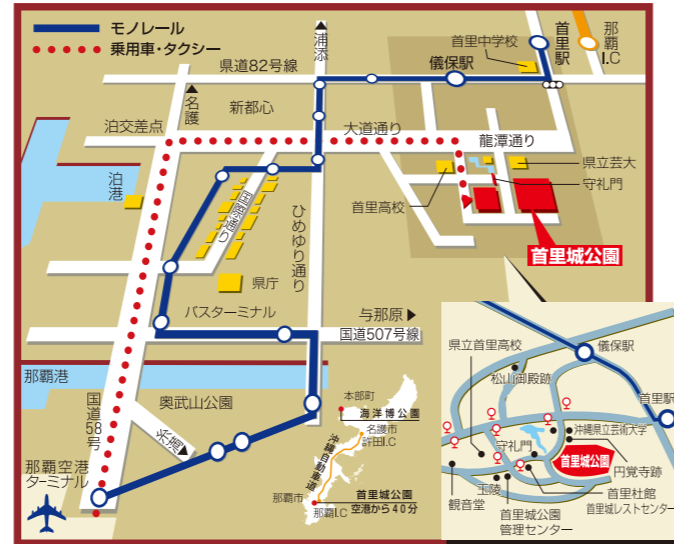
※ 入館券販売締切は閉館時間の30分前

[入館料金]

	大人	中人(高校生)	小人(小・中学生)
一般料金	820円	620円	310円
団体料金	660円	490円	250円
年間パスポート	1,640円	1,240円	620円

- ・団体は20名様以上
- ・モノレール(ゆいレール)のフリー乗車券(一日券・二日券)をご利用中のお客様は、首里城公園券売所窓口にて乗車券の提示により、団体料金の適用となります。
- ※フリー乗車券の有効期限内において、一枚につきお一人様一回限りの割引となります。

[アクセス]



※ 駐車場に限りがありますので、バス、タクシー、モノレール等の公共交通機関をご利用ください。

お得! 首里城公園年間パスポート

入館料2回分の料金で、1年間何度でも入館できるお得なパスポート。



- 更新特典
- ① 首里城公園直営売店のオリジナル商品がパスポート提示で10%割引!!
 - ② 抽選で1万円分の商品券を進呈!

一部施設休館日

※ 詳しくはHPへ

2018年7月4日(水)・5日(木)

各施設の設備点検等のため一部施設が休館となります。
※ 首里城公園は毎年「7月の第一水曜日とその翌日」に一部休館いたします。

海洋博公園のご案内

海洋博公園夏休みスペシャル



沖縄と世界の貴重な昆虫展

～植物と昆虫の不思議な関係～

7/14(土)～9/30(日)

沖縄と世界の昆虫が大集合!植物と昆虫の不思議な関係を探ろう!

■ 熱帯ドリームセンター
◎ 8:30～19:00 (入館締切18:30)
■ 入館料のみ



ダンボールパーランク作り

7/21(土)～8/26(日)の土日

暑い夏とお盆、そしてエイサーの時期がやってきた。ダンボールでパーランク(太鼓)を作り、沖縄の伝統文化に触れよう!

■ 海洋文化館コミュニティホール
◎ 10:00～17:00(最終受付16:30)
■ 300円※別途入館料 1日先着100名



カヌー体験

8/11(土)～26(日)の土日

カヌーを漕いで海の世界へ繰り出そう!

■ エメラルドビーチ遊びの浜
◎ 10:00～12:00
13:00～17:00(最終受付16:30)

■ 500円 ※沖縄美ら海水族館チケット提示で半額 1日160名(当日受付)



※詳細は海洋博公園HPまで

題字: 御城だより

御城(ウグシク)とは首里城の敬称。首里では今でも親しみを込め、この呼び方が使われています。

表紙: 首里城オリジナルぬりえポストカード

夏休み体験イベントのひとつ、首里城公園オリジナルぬりえポストカードは、首里城の色を学ぶことをテーマに、施設の見学後に「ぬりえ」をお楽しみいただくプログラムです。ぬりえが終わったら家族や友達にメッセージを添えて送ることもできます。

御城だより Vol.4 夏号 季刊誌

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2

TEL: 098-886-2020

[発行日] 2018年7月1日

[編集・発行] 国営沖縄記念公園(首里城地区)、県営首里城公園

指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

URL <http://oki-park.jp/shurijo/>

御城だより

UGUSHIKUDAYORI

2018
7

遊びながら琉球王国・首里城を学ぼう

首里城公園 夏休み体験イベント

首里城公園企画展 南殿二階特別展示室 / 黄金御殿特別展示室

琉球 美の動物園 ～琉球人が描いた生き物たち～

Column 三百年の歴史を誇る「組踊」～最高峰の琉球伝統芸能～

首里城公園 中秋の宴

中秋の月下 華麗な宴に酔いしれる



夏休み体験イベント!

遊びながら琉球王国の歴史、首里城のひみつを学ぼう!夏休みは首里城公園へ!

2018. 8/1 水 ~ 8/26 日



① ぬりえで親しむ琉球王国 首里城ぬりえポストカードで お便りを送ろう!

実施日 期間中 **毎日**
時間 10時00分~16時00分
場所 【受付】系図座・用物座
 【ぬりえ会場】首里杜館地下1階ビクターロビー
料金 無料 ※投函する際は切手代(120円)が必要です。

守礼門や首里城正殿の色を学び、ぬりえを楽しんだあとは思い出やメッセージを添えて首里城ポストから届けよう!



② 正殿を守る龍のひみつ! ガイドツアー & 漆喰絵付け体験

正殿と龍のひみつが分かったら、首里城オリジナルの漆喰の龍に色づけ!
世界にひとつだけの作品をつくって夏休みの思い出にしよう!

実施日 8月4日(土)、5日(日)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、26日(日)
時間 10時00分~16時00分
場所 【受付】系図座・用物座 【絵付け】首里杜館1階情報展示室

第1回目	第2回目
受付時間 / 10:00~10:15	受付時間 / 14:00~14:15
●ガイドツアー / 10:15~11:00 (約45分)	●ガイドツアー / 14:15~15:00 (約45分)
●絵付け体験 / 11:00~12:00 (約60分)	●絵付け体験 / 15:00~16:00 (約60分)

料金 1,000円 ※別途入館料が必要です。(年間パスポート可)
定員 各回 20名まで
参加方法 事前予約制(電話受付) ※空きがある場合は、当日参加可
参加特典 琉装体験&記念撮影ができる!(希望者のみ)



③ 王国時代へタイムスリップ! なりきりペーパークラフトで 琉球王国を体験しよう!

琉球王国の玉御冠(皮弁冠)や聞得大君の金簪、首里赤田町のミルク神のペーパークラフトを体験した後は、首里城内で記念撮影を楽しもう!

実施日 期間中 **毎日**
時間 10時00分~16時00分
場所 首里杜館地下1階ビクターロビー
料金 無料



ハサミを使わずカンタン!



④ 子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで♪ 親子で楽しむ 沖縄紙芝居

昔ながらの民話を元に描いた紙芝居!沖縄方言(しまくとぅば)や沖縄の昔話を楽しく学ぼう!

実施日 8月11日(土)、8月25日(土) **料金** 無料
時間 11時00分~、13時00分~、15時00分~1日3回(各回30分程度)
場所 首里杜館1階情報展示室

⑤ どんな生き物が隠れてるかな? 首里城公園夏休みクイズラリー

首里城公園内にあるポイントを巡って、首里城に隠れた生き物を探そう!シールを全部集めたらプレゼントがもらえるよ!

実施日 期間中 **毎日** **料金** 無料
時間 10時00分~16時00分 **特典** シールを全部集めた方に星の砂キーホルダーをプレゼント!
受付場所 系図座・用物座、首里杜館地下1階ビクターロビー



⑥ ゾクゾク、ワクワク! 夜の首里城を楽しもう! ミステリーナイトツアー in 首里城

首里城にまつわる不思議な話やこわい話をテーマに、園内をめぐるながら楽しく夜の首里城公園を散策しよう!

実施日 8月4日(土)、8月18日(土)
時間 【受付】18時30分【実施】18時45分~20時15分
参加方法 事前予約制(電話受付) ※空きがある場合は当日参加可
料金 入館料(年間パスポート可) ※中学生以下は保護者同伴となります。
集合場所 首里杜館地下1階ビクターロビー



琉球美の動物園

琉球人が描いた生き物たち

琉球王国時代の絵画や工芸品を眺めると、そのデザインの中に様々な生き物が描かれていることに気がきます。鳥や猫などの身近な動物から龍などの想像上の神獣まで、当時の琉球の人びとはどのように生き物を見つめ、描いてきたのでしょうか。

南殿二階特別展示室

実在の生き物たち

琉球王国時代に首里城を彩り、王族や士族の生活を豊かにしていた美術工芸品。その中には自然をモチーフとした花や植物、流れる水などの文様はもちろん、生き生きと描かれた動物の姿を見ることができます。南殿二階特別展示室では、「鳥」「猫」「栗鼠(りす)」「虎」という、4種類の実在の動物をモチーフにした絵画や染織衣裳、漆器等を展示します。武永寧の『神猫図(しんびょうず)』は、平成29年度に収集したばかりで、今回初公開となる作品です。これ以外にも猫を描いたものは沖縄県内に数点残っていますが、沖縄文化研究の第一人者である鎌倉芳太郎が戦前に撮影した『神猫図(伝・股元良)』との共通性が見られる大変興味深い作品です。現代に生きる私たちにとって大変身近な猫をモチーフにしており、当時の琉球人からも愛される存在であったことがうかがえます。一方、興味深いのが栗鼠や虎です。虎はもともと、中国の故事の中で「龍が鳴けば雲が起り、虎が吠えれば風が起る」という



しんびょうず ぶえいねい
神猫図(武永寧・作)

ように龍とセットで登場し、昔から中国や日本等でも好んで描かれてきました。今では実物を目にすることができますが、当時はめったに見られなかった動物であったことから、デザインとして伝わったと考えられます。そのためか、実物よりも愛らしく感じられます。



くろうるしぶどうりすはくえじきろう
黒漆葡萄栗鼠箔絵食籠

同様に、栗鼠も当時の琉球では見る事ができなかった動物で、大陸から伝わった工芸品を基に描かれたと考えられます。子をたくさん産むことから豊穰を意味するおめでたい文様として、葡萄とセットで漆器のモチーフになっています。それだけではありません。首里城正殿2階の玉座の下部にも描かれているので、ぜひ目を凝らして探してみてください。

【琉球 美の動物園】
南殿二階特別展示室

会期日 2018年 7月6日(金)
～10月4日(木)

※ 作品保護のため、一部展示替えがあります。

とら ず しんこき
虎の図(慎克熙・作)

黄金御殿特別展示室

デザインされた神獣たち

黄金御殿特別展示室に展示された工芸品には、権力や平和の象徴とされた「鳳凰(ほうおう)」や、水と関係が深い「龍」、守り神「獅子」、徳の高い王の治世に現れる「白澤(はくたく)」など想像上の伝説的な神獣が描かれています。万物の情報に通じ、人の言葉を理解し、災いを取り除くことができる神獣として知られた「白澤」。自了が描いた『白澤之図』は、17世紀前半に描かれており(展示する作品は複製品)、古くから琉球にも伝わる神獣だったと言えます。床飾りに用いられた『黒漆獅子螺鈿中央卓(くろうるししらでんちゅうおうじょく)』には伝説の生き物・獅子が描かれています。獅子は、王族や氏族のために作られた豪華絢爛な美術品の中だけでなく、首里城正殿へと続く門の側でも見ることができます。昔から地域や家の守り神としても広く受け入れられており、首里城の中だけでも様々な表情を持つ獅子に出会えます。



はくたくのず じりょう
白澤之図(自了・作)



こうじかんしょ
高人鑑書(高人鑑・作)



くろうるししらでんちゅうおうじょく
黒漆獅子螺鈿中央卓

展示室の内外で息づく工芸品の中の生き物たち

展示室でじっくり本物を眺めていると、文様の繰り返しや動物と自然の組合せ、配置からリズムが感じられ、描かれた動物なのに動き出す瞬間を目にすることがあるのではないのでしょうか。また、琉球王国の人びとは、献上品や調度品だけでなく首里城正殿の内外を彩る装飾品の中にも動物や神獣をたくさんデザインして来ました。今回の企画展を通して、当時の人たちが動物にそそいだ眼差しやどのような思いや願いを込めて形にしてきたのかをぜひ感じてみてください。

【琉球 美の動物園】
黄金御殿特別展示室

会期日 2018年 7月6日(金)～10月11日(木)

※ 作品保護のため、一部展示替えがあります。



ちまひらにまはる
亭麻白地鳳凰と扇牡丹文様両面紅型単子供衣裳

中秋の宴

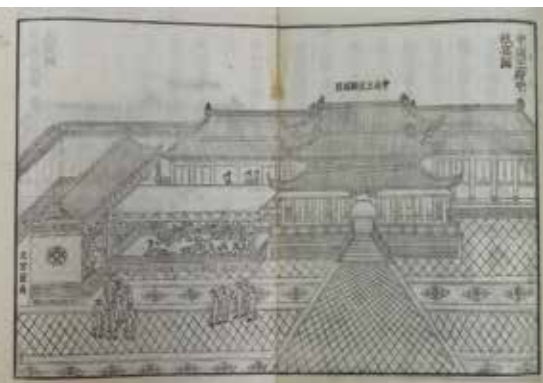
ちゅうしゅうのうたげ

中秋の月下
華麗な宴に酔いしれる



中秋の宴とは

琉球王国時代、中国皇帝の使者である「冊封使(さつぽうし)」を歓待するために開かれた「冊封七宴(さつぽうしちえん)」。その宴のひとつとして、旧暦の8月15日に中秋の名月の下で行われたのが「中秋の宴」です。資料によると、首里城北殿の前に設けられた仮設の舞台上で、冊封使や国王を前に様々な芸能が演じられる華やかな宴であったようです。



描かれた北殿前の仮設舞台(図中央やや左側)
(徐葆光『中山傳信録』1721年)

大変な道のりを行き来した冊封使たち

琉球と中国の交流は1372年から始まり、1879年(明治12年)に沖縄県が設置されるまで約500年間も続きました。琉球で国王が代わるたびに中国皇帝は使者を遣わし、琉球国王を認める即位式を執り行いました。この外交的な式典が「冊封(さつぽう)」で、そのために中国からやって来る使者が「冊封使」です。冊封使の一団は、中国皇帝から任命された上級官人を中心に構成されましたが、その従者などもあわせて総勢400~500名もの団体になったそうです。使節是北京から陸路を通じて福建省福州に出向き、そこから中国では封舟(ほうしゅう)と呼ばれる船で東シナ海を横断し、琉球へやって来ました。その道のりは往復6000キロメートルに及び、大変な長旅だったことがうかがえます。



そのような長い道のりをかけてやって来た封舟を琉球では御冠船(うかんしん)と呼び、人々は大変な敬意を持ってもてなしました。その中でも特に盛大に行われた七つの宴「冊封七宴」では、琉球最高峰の芸能を披露しなければならなかったことから、現代にも伝わる琉球古典芸能が生まれることとなります。



「中秋の宴」の見どころ

首里城公園では、王国時代の琉球の風情を今に感じていただこうと、毎年「中秋の宴」を開催しています。当日は、月明かりに照らされた首里城正殿を背にした特設ステージで、人間国宝による最高峰の古典芸能や琉球舞踊、組踊などが無料で鑑賞いただけます。首里城と琉球芸能が織りなす最高の舞台。贅沢なひとときをお楽しみください。また、二日目には、平成30年度首里城祭「国王・王妃公開選出大会」を行います。8月1日より応募を開始いたしますので、詳しくはホームページをご確認ください。



首里城コラム Column

琉球王国時代、中国に朝貢していた琉球にとって、王の代替わりの時に中国からやって来る使者・冊封使の接待は重要な政治課題でした。そんななか、一七一九年、第二尚氏第十三代・尚敬王の冊封にあたって踊奉行の職に命ぜられた玉城朝薫が、宴の席で日本の芸能を参考に「執心鐘入(しゅうしんかねいり)」と「童敵討(どうてきうち)」を上演しました。これが、現在に伝わる組踊の始まりです。朝薫は、そのほか「銘苅子(めかるしー)」「女物狂(おんなものぐるい)」「孝行之巻(こうこうのまき)」をあわせ、組踊を五番創作したことは有名です。「女物狂」以外は王国時代によく知られた故事に基づいたものです。



玉城朝薫は、琉球王国のエリート層である士族でした。当時の士族は、行政を担う官僚や芸能・文芸などに優れた文化人として能力が求められました。彼らにとつての芸能・文芸は単なる教養でなく、役人としての存在意義にかかわる条件でした。そして、冊封使の歓待のため「組踊」を上演したよ

うに、琉球王国は外交や貿易を円滑にすすめる支えとして芸能をはじめ王朝文化を活用しました。「組踊」は、王国の威信を支えた文化の華のひとつだったのです。

音楽、舞踊、台詞それぞれの技が究極まで高められ、互いに調和する「組踊」は、観る者に深い感動を与えます。旧暦の八月十五日前後の土日に首里城公園で開催される「中秋の宴」では、月明かりに照らされた首里城正殿を背にした特設ステージで、沖縄の伝統芸能である組踊を無料で鑑賞いただけます。この機会にぜひ首里城へ足を運び、奥深い組踊の世界をお楽しみください。

三百年の歴史を誇る「組踊」

最高峰の琉球伝統芸能

くみおどり